

2020年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年8月13日

上場会社名 アルファグループ株式会社
 コード番号 3322 URL <http://www.alpha-grp.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部長
 四半期報告書提出予定日 2019年8月14日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 吉岡 伸一郎
 (氏名) 松浦 孝暢
 TEL 03-5469-7300

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	5,542	6.7	83	96.2	142	87.9	70	100.7
2019年3月期第1四半期	5,196	3.6	42	51.1	76	10.0	35	8.6

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 70百万円 (100.7%) 2019年3月期第1四半期 35百万円 (8.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	24.95	24.94
2019年3月期第1四半期	12.43	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第1四半期	8,693	3,863	44.3	1,363.06
2019年3月期	9,333	3,833	41.0	1,353.11

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 3,852百万円 2019年3月期 3,824百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		0.00		15.00	15.00
2020年3月期					
2020年3月期(予想)		0.00		15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	10,500	3.1	153	0.7	228	4.6	128	19.6	45.29
通期	22,000	1.0	307	9.7	459	7.8	207	38.9	73.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期1Q	3,481,200 株	2019年3月期	3,481,200 株
期末自己株式数	2020年3月期1Q	654,883 株	2019年3月期	654,883 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期1Q	2,826,317 株	2019年3月期1Q	2,826,317 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3'1「当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

① 全般的概況

当第1四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)における我が国の経済は、政府による各種政策の効果により、企業収益や雇用環境の改善が進むなど緩やかな回復基調が続いている一方で、米中貿易摩擦など通商問題の動向や経済の不確実性といった海外における懸念材料により、依然として先行き不透明な状態が続いております。

このような経済情勢の中、当社グループは、三本目の柱である環境商材事業を、モバイル事業、オフィスサプライ事業に並ぶ当社を支える強固な収益基盤へと育て上げるべく事業運営に注力してまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高55億42百万円(前年同四半期比6.7%増)、営業利益83百万円(前年同四半期比96.2%増)、経常利益1億42百万円(前年同四半期比87.9%増)となり、親会社株主に帰属する四半期純利益70百万円(前年同四半期比100.7%増)となりました。

② セグメント情報

<モバイル事業>

モバイル事業におきましては、2019年10月施行予定の改正電気通信事業法に対応した新料金プランを各通信事業者が打ち出していることや新たな通信事業者が参入予定であること、またこの数年でMVNO(仮想移動体通信事業者)端末の普及がさらに進み、顧客の通信端末利用環境がより多様化していることなどから、市場におけるサービス競争は新たな局面を迎えております。

各通信事業者における長期利用顧客の維持・拡大を企図した施策を受けて買い控え等が予想される中、通信端末のみならず通信事業者が展開する各種商材についてもこれまで以上に積極的に展開していくなどの取り組みに注力いたしました。また、スマートフォンアクセサリ専門ショップにつきましては、これまで確立された販売網により堅調な収益を確保できるよう努めております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は36億83百万円(前年同四半期比6.1%増)、営業利益53百万円(前年同四半期は営業損失5百万円)となりました。

<オフィスサプライ事業>

オフィスサプライ事業におきましては、二拠点体制となった当社保有のコールセンターの活用により「カウネット」の新規顧客獲得と既存登録顧客への継続利用の促進を行うなどの取り組みに注力すると共に、グループ内でのシナジーを図って、環境商材事業における新規顧客獲得などにも取り組みました。また、株式会社カウネットが提供する間接材一括購入システムである「べんりねっと」の導入提案を、従業員数が500名を超える規模の法人顧客に向けて積極的に進めております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は15億20百万円(前年同四半期比3.8%減)、営業利益57百万円(前年同四半期比8.5%増)となりました。

<環境商材事業>

環境商材事業におきましては、LED照明機器の販売・レンタルを主軸に、電力の小売やウォーターサーバーで使用するウォーターパックの販売、保有ソーラーパークを活用した太陽光発電などを展開しております。

LED照明機器の販売・レンタルにおきましては、LED照明機器への置き換えが一段落するまでに、病院や公共団体の施設等に対して積極的に導入の提案を行っております。契約時点において費用が発生することになるレンタルというスキームに特に注力した結果、当社グループ全体への収益貢献という段階にはまだ至っておりませんが、医療法人を中心とする広範な顧客基盤がこれまでの営業活動の結果として確立できました。今後は、先行投資の回収へと移行すると共に、この顧客基盤を活用してLED照明機器のみならず職場環境等の改善に資するような各種商材を展開してまいります。

電力の小売におきましては、一般家庭や商店などを対象とする低圧区分まで自由化の動きが広がり、電力の小売が完全に自由化されたことを受けて、2018年7月より当社グループにおきましても「アルファ電力」の提供を開始いたしました。特に低圧で受電する法人顧客をターゲットに営業活動を展開しております。

ウォーターパックの販売におきましては、新規の利用顧客の獲得といった活動は行っていないものの、既存顧客の継続的な購入により、堅調に収益を確保しております。また、太陽光発電におきましても、新たな投資を控えて売電収入の確保に注力しております。これら2つの商材においては、投資に対して最小限の費用で継続収益を確保するというビジネスモデルを確立しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は3億42百万円(前年同四半期比133.0%増)、営業損失26百万円(前年同四半期は営業損失5百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は86億93百万円で、前連結会計年度末に比べ6億40百万円の減少となりました。主な増加は、現金及び預金の増加1億64百万円等であり、主な減少は、売掛金の減少2億78百万円、商品の減少68百万円、顧客関連資産の減少41百万円等であります。

負債は48億29百万円で、前連結会計年度末に比べ6億69百万円の減少となりました。主な減少は、短期借入金の減少2億50百万円、未払法人税等の減少1億20百万円、買掛金の減少1億10百万円等であります。

純資産は38億63百万円で、前連結会計年度末に比べ29百万円の増加となりました。主な増加は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加70百万円、新株予約権の増加1百万円であり、主な減少は、配当金の支払42百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当初予定していた範囲内で推移しており、現時点におきましては2019年5月15日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,123,918	2,288,611
売掛金	1,334,416	1,056,121
リース債権及びリース投資資産	43,706	124,678
商品	1,343,975	1,275,631
貯蔵品	603	603
その他	1,318,630	1,220,697
貸倒引当金	△2,666	△2,506
流動資産合計	6,162,584	5,963,838
固定資産		
有形固定資産		
土地	153,126	153,126
その他	996,476	952,699
有形固定資産合計	1,149,603	1,105,826
無形固定資産		
顧客関連資産	504,925	463,861
その他	14,080	14,358
無形固定資産合計	519,006	478,219
投資その他の資産		
差入保証金	805,396	813,140
その他	911,879	535,504
貸倒引当金	△215,154	△203,309
投資その他の資産合計	1,502,121	1,145,335
固定資産合計	3,170,730	2,729,381
資産合計	9,333,315	8,693,219
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,210,444	1,099,762
短期借入金	1,050,000	800,000
1年内返済予定の長期借入金	631,210	669,597
未払法人税等	165,861	45,718
賞与引当金	27,268	12,363
その他	770,726	508,743
流動負債合計	3,855,510	3,136,185
固定負債		
長期借入金	1,270,216	1,319,839
工事負担引当金	135,000	135,000
役員退職慰労引当金	66,374	67,049
その他	172,227	171,591
固定負債合計	1,643,818	1,693,479
負債合計	5,499,328	4,829,665

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	728,734	728,734
資本剰余金	688,336	688,336
利益剰余金	3,292,382	3,320,498
自己株式	△885,139	△885,139
株主資本合計	3,824,314	3,852,430
新株予約権	9,672	11,123
純資産合計	3,833,986	3,863,554
負債純資産合計	9,333,315	8,693,219

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	5,196,882	5,542,852
売上原価	4,354,799	4,571,511
売上総利益	842,082	971,341
売上利益調整		
繰延リース利益戻入額	—	897
繰延リース利益繰入額	—	63,675
売上利益調整額	—	△62,777
差引売上総利益	842,082	908,563
販売費及び一般管理費	799,418	824,840
営業利益	42,664	83,723
営業外収益		
受取利息	554	470
受取手数料	30,492	47,807
助成金収入	5,920	14,984
その他	2,301	1,514
営業外収益合計	39,269	64,776
営業外費用		
支払利息	5,300	4,993
その他	565	569
営業外費用合計	5,865	5,562
経常利益	76,067	142,938
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純利益	76,067	142,938
法人税、住民税及び事業税	41,720	42,971
法人税等調整額	△786	29,456
法人税等合計	40,934	72,427
四半期純利益	35,133	70,511
親会社株主に帰属する四半期純利益	35,133	70,511

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	35,133	70,511
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	—	—
四半期包括利益	35,133	70,511
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	35,133	70,511
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	モバイル 事業	オフィス サプライ 事業	環境商材 事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	3,473,595	1,576,316	146,970	5,196,882	—	5,196,882
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	3,978	—	3,978	(3,978)	—
計	3,473,595	1,580,294	146,970	5,200,860	(3,978)	5,196,882
セグメント利益 又は損失(△)	△5,085	53,007	△5,257	42,664	—	42,664

(注) 1 セグメント売上高の調整額は、セグメント間の内部売上高消去額であります。

2 セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	モバイル 事業	オフィス サプライ 事業	環境商材 事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	3,683,999	1,517,908	340,944	5,542,852	—	5,542,852
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	2,328	1,519	3,848	(3,848)	—
計	3,683,999	1,520,237	342,464	5,546,701	(3,848)	5,542,852
セグメント利益 又は損失(△)	53,053	57,525	△26,856	83,723	—	83,723

(注) 1 セグメント売上高の調整額は、セグメント間の内部売上高消去額であります。

2 セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。